

(6) サヤインゲン

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。

なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
モザイク病 (PSV、BYMV、 BCMV、CMVマ メ科系統)	①健全株から取った種子を使用する。 ②ほ場周辺の除草を行い、伝染源を絶つ。 ③媒介虫であるアブラムシ類を防除する（アブラムシ類の項目を参照）。 ④発病株を早期発見し除去する。 【参考事項】 病原ウイルスは、アブラムシ類によって伝搬されるほか、種子伝染するものもある(ウイルス病の伝染方法の項参照)。
炭疽病 (<i>Colletotrichum</i>)	①無病株の健全莢から採種する。 ②発病株は早期に除去する。 ③常発地では連作を避ける。 【参考事項】 初夏に雨の多い年は発生が多い。
苗立枯病 (<i>Pythium</i>)	①土壌を還元状態にして太陽熱消毒を行う（土壌病害虫の防除法の項参照）。
根腐病、萎凋病 (<i>Fusarium</i>)	①土壌を還元状態にして太陽熱消毒を行う（土壌病害虫の防除法の項参照）。 【参考事項】 主として厚膜胞子の形で、土壌中に4～5年以上生存する。
葉腐病、リゾクトニア根腐病 (<i>Rhizoctonia</i>)	①土壌を還元状態にして太陽熱消毒を行う（土壌病害虫の防除法の項参照）。
アブラムシ類	①防虫ネットで被覆する。 ②シルバーポリマルチをする。 ③ほ場内又は周辺の雑草を除去する。 

モモアカアブラムシ（左）、ワタアブラムシ（右）